



◆ 発行 ◆

名古屋労災職業病研究会

名古屋市昭和区山手通 5-33-1 杉浦医院 4階

TEL&FAX : 052-837-7420

e-mail : roushokuken@be.to

<http://nagoya-rosai.com/>



6月1日の省庁交渉でオブジーボの早期承認を厚労省の担当者に要請する中皮腫サポートキャラバン隊の栗田英司さん（左端）

94号目次

- | | | |
|---|---------------------------------------------|--------|
| ☆ | 第15回総会記念講演「パワーハラスメントの現状と対策」 | P2 |
| ★ | 第15回総会 | P2~P3 |
| ☆ | 長野支部結成の集いを開催 | P4~P5 |
| ★ | オブジーボの早期承認と隙間と格差のないアスベスト被害の補償救済を求め院内集会と省庁交渉 | P5~P8 |
| ☆ | ・・・今日という一日を大切に生きて・・・ | P8~P9 |
| ★ | 事務局からのお知らせ | P9~P10 |

☆第15回総会記念講演

「パワーハラスメントの現状と対策」

名古屋労災職業病研究会第15回総会記念講演は、いじめ・メンタルヘルス労働者支援センター（IMC）代表の千葉茂さんに行っていただきました。IMCは2010年1月に職場でのいじめやハラスメントに悩む労働者の支援を行うため設立されました。IMCは東京の四ツ谷にあります。

千葉さんは東京管理職ユニオンの専従を10年くらい務めた後、IMCの代表に就任しました。日々、職場でいじめ、パワハラにあった労働者の相談にのっています。

講演内容は学校のいじめ、職場のいじめ、いじめへの対応など多岐にわたりました。講演のために素晴らしいレジュメを千葉さんが用意してくださいましたので、今号のもくれんとともにお送りいたします。



千葉茂さん

（事務局 成田博厚）

★第15回総会



平成30年6月10日午後3時45分正会員76名、出席者10名、委任状45名で過半数である39を超えているので、総会は成立した。議長には、通例に従い当会の代表である私、森亮太が務めることが承認された。2017年度活動報告案に示す通り、毎月かなり多くの会議や相談会、へと奔走している成田さんの様子がうかがえる。前回の総会でも目標に掲げたが、早急にもう一人の事務局を受け入れ、育てる体制づくりが必要と思われた。また、新潟、静岡、長野と新しくアスベスト疾患患者と家族の会の立ち上げの手伝いから、実際の立ち上げまで東海北陸を行き来する年であった。昨年度は、外国人労災ホットラインを行うことが出来なかったが、最近の傾向で行っても、相談件数が減っており実際に即した相談会の在り方を検討していかないといけないと思われた。

続いて、2017年度会計報告（案）が、事務局牧さんより行われた。当期正味財産増加額が大幅に増え、その内訳は相談支援カンパがほとんどである。言い換えれば、今の労職研の相談の中心となるアスベスト疾患患者さんがまだまだ多くいることを示している。アスベストバスターとしての活動を今後も続けることで、アスベスト疾患で健康的にも社会的にも、

経済的にも苦しむ人をなくしていければと思います。会計監査報告は2018年5月10日谷田部仁夫氏によって行われ、正確かつ適正に行われていることが確認された。

2018年度の活動方針（案）については、例年の方針を踏襲しつつ、更なる会員の拡大と、アスベスト被災者根絶に向けて、新たな地域での患者と家族の会の発足支援を充実させていくことを目標とした。

2018年度の予算（案）は、前年の予算案を参考にし、無理背伸びをしない案を提案した。

運営委員会、事務局体制、顧問については前年度を引き継ぐ案が出された。

一括討議としたが、質問、反対意見もなく賛成多数によりすべての議案が成立した。

（代表 森 亮太）

運営委員会・事務局体制、顧問

運営委員

浅野 文秀（名古屋ふれあいユニオン副委員長）
井上 敏（NPO 地図で防災・まちづくりサポート副理事長）
江川 正典（ユニオンみえ）
榊原 悟志（榊原社労士事務所）
東岡 牧（訪問看護ステーションななみ）
宮地 和子
山田 和孝（環境創造研究所）

会計

牧 美紀代

会計監査

谷田部 仁夫（西尾国際クラブ）

顧問

名嶋 聰郎（名嶋・綿貫法律事務所 弁護士）
高木 ひろし（愛知県議会議員）
小林 章雄（医学と社会・連携支援機構 代表理事）
柴田 英治（愛知医科大学医学部衛生学講座 教授）

事務局

森 亮太（杉浦医院院長）
成田 博厚（常任）
牧 美紀代（常任）

☆長野支部結成の集いを開催



5月19日（土）に長野市のもんぜんぷら座で長野支部結成の集いを行いました。患者、家族や関係者等20人あまりが参加しました。長野支部は22番目の支部になります。

集いの冒頭、小菅副会長より「長野の会員の皆さんと共に相談会等を通じた被害者の掘り起こし、患者・家族の不安の軽減、被害者を公的な救済制度につなげる活動等を積極的に行いたい」と挨拶がありその後、長野支部世話人に就任された大原慎一郎さんと菅谷泰子さんから挨拶がありました。大原さんは「10年前に父が中皮腫を発症し、情報が無くて

困っている時に患者と家族の会に助けられた。長野県で自分と同じように困っている方々の力になりたい」と話し、菅谷さんは「電力会社に勤務していた夫が昨年2月に中皮腫で亡くなった。患者と家族の会の役に立てたらと考えている」と話しました。

この後、中皮腫サポートキャラバン隊の青山和弘さんの「病気になってよかったかも…」というタイトルのメッセージと、右田孝雄さんの「一笑懸命」というタイトルのメッセージの発表がありました。

岐阜県飛騨市で介護付き高齢者住宅の運営等、福祉サービスを提供する会社の経営をしている青山さんは3年前に腹膜中皮腫を発症し手術を受けました。運営している施設の入居者やデイサービスの利用者には最終的に迷惑をかけるかもしれないと考えていることから病気のことについて伝えてあり、抗がん剤治療の後は入居者のお年寄りから「大丈夫？」とか「今日は顔がむくんでいるね」などと声をかけられることがあるということでした。病気になってよかったことは人に優しくできるようになったことや、治療を受けている病院の看護師さんや愚痴を聞いてくれる友人や先輩、家族に感謝をするようになったことだそうで、子供達とはラインのやり取りを頻繁にするようになり、家庭内での会話も増えたということでした。発症後の患者と家族の会などでの新しい出会いにも感謝しており、財産になると考えていると語りました。

1年10か月前に胸膜中皮腫を発症した右田さんは、発症した時は随分落ち込んだが、ヨーロッパのテロで200人近い人が亡くなったニュースに接し、夢半ばで家族にも挨拶もできないまま死んでいった方々を想像した時、自分には余命が2年あるのだと思い直し、死ぬまでにしたいことを列記したバケツリストを作り前向きに生きていくことを決意したことや、阪神の西岡剛選手が左足アキレス腱を断裂し選手生命が危ぶまれていた時期に、抗がん剤治療の為に入院していた病院で、西岡選手がファンの皆さんから応援をもらって絶対に復活すると表明したことを知り勇気づけられたエピソードなどを紹介しました。この日、右田さんはオブジーボの早期承認を厚労省に要請したことなども紹介しました。

中皮腫を発症してから14年間療養を続けている関東支部の千歳恭徳さんからは「患者と家族の会が中皮腫患者にとって日本で一番のコミュニケーションの場。励まし合いながら活動していきましょう」とお祝いの言葉をもらい、13年間中皮腫の療養を続けている新潟支

部世話人の岡田伸吾さんからは「病気を受け入れるのは難しいこと。皆で支え合っていくことが大切」との言葉をもらいました。

最後に参加者全員の自己紹介を行いました。石綿紡織の工場で働いていたという女性や、建設業に携わったことから中皮腫を発症し療養をしている男性とそのお連れ合い、船員だった父親を石綿肺で亡くした男性や両親が平和石綿工業で働き石綿関連疾患を発症しているという方などが参加していました。集いの後は希望者でお蕎麦を食べに行きました。

翌20日にはもんぜんぷら座でアスベスト相談会を行い、建設業で吹付け石綿にばく露し、12年前に肺がんで亡くなった父親の労災申請を考えている男性の相談などを受けました。

結成の集いは内容が盛りだくさんだったので、次回はゆっくり参加者同士で交流する機会を持つことを考えています。

(事務局 成田 博厚)

★オブジーボの早期承認と隙間と格差のないアスベスト被害の

補償救済を求める院内集会と省庁交渉

6月1日(金)、衆議院第一議員会館で中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会の院内集会と省庁交渉が開催されました。かなり前から「中皮腫100人集会 省庁交渉だヨ全員集合」のチラシを作成し会員に呼びかけ準備を行ったことから、この日は中皮腫患者30数人を含む50人あまりのアスベスト関連疾患の患者さんと、患者家族や遺族、全国の安全センターの関係者など200人が全国から集まりました。

最初に12時から13時まで「オブジーボの早期承認と隙間と格差のないアスベスト被害の補償救済を求める院内集会」が行われました。

冒頭、患者を代表して今回の院内集会、省庁交渉のプロジェクトリーダーの右田孝雄さんが「今日こそ思いの丈を省庁の役人に訴える時です」と挨拶しました。



プロジェクトリーダーの
右田孝雄さん

右田さんは大阪府在住で、昨年7月に中皮腫を発症し療養しながら中皮腫サポートキャラバン隊の活動を全国で続けてきました。中皮腫サポートキャラバン隊は中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会の会員の中皮腫患者さんが行っている活動で、全国をまわり講演活動や患者さん同士のピアサポート活動を推進してきました。

院内集会では、東京に来ることのできなかった中皮腫や肺がんなどアスベスト関連疾患の療養をして



いる患者さん達14人のビデオメッセージが上映されました。尼崎に居住歴があり、中皮腫で療養中の名古屋市の49歳の男性は、中皮腫の効果的な治療法の確立や治療に関して患者や家族に十分な説明を徹底欲しい事、石綿健康被害救済給付制度における救済給付金を生活保障として位置付けることを求めるメッセージを発表し、中皮腫で療養中の一宮市の64歳の男性は、現在の療養費に充てる為、労災保険の遺族一時金や葬祭料を前払いして欲しいという内容のメッセージを発表しました。

患者、家族による発表も行われ、2016年9月に腹膜中皮腫の診断を受けた後、中皮腫サポートキャラバン隊で活動している埼玉県原修子さんは、中皮腫発症後、キャラバン隊に参加することにより全国の患者・家族に出会う中でお互いに支えあう事の大切さを実感した事や、患者が求めている事として、オプジーボの早期承認、新薬・新たな治療法開発の推進、全ての患者・家族・遺族に隙間と格差のない補償と救済、救済給付金受給者へ通院交通費の支給などを求めることを発表しました。



原修子さん

2年前の2016年1月に38歳の夫を胸膜中皮腫で亡くした4歳の子供を抱える女性は「労災が認められず、石綿健康被害救済給付の一時金しか遺族に支払われないことに憤りを覚えます。国が使用を認めてきたアスベストで夫は病気になったのに理不尽。格差のない補償を求めます」と訴えました。

胸膜中皮腫と診断され3年になる埼玉県の女性は、「これから多数の人が中皮腫を発症すると予測されています。現在拡大治験を行っているオプジーボの早期承認と新薬の開発を急いで欲しい。私は身に覚えのない病気になり治療の為、仕事を辞めなければなりません。働きたくても治療で会社を休まなければならなかったり、健康でない人を新たに雇ってくれる会社を見つけるのは困難です。何の落ち度もなく環境ばく露した患者が安心して生活できるよう労災並みの手厚い補償をして欲しい」と訴えました。

この院内集会では6人の国会議員の皆さんに挨拶をしていただきましたが、社民党副党首の福島瑞穂参議院議員は「(建設国賠では)裁判が終わる前に亡くなる人が多い。裁判で解決するのでなく超党派の議員で基金を作り早期解決をすべく頑張っている」とお話しをしていただきました。

首都圏建設アスベスト訴訟原告団共同代表の吉田さんの、「10代のころから兄弟3人で左官業を長いことしてきたが、自分がアスベストの病気になるとは思いもよらなかった。同じく建設業で働いていた2人の兄はアスベストで亡くなりました」というお話しの後、最後に患者と家族の会の小菅千恵子副会長より「患者を中心にこの集会を計画しました。アスベスト問題は終わっていません。被害者は増え続けています。治療法もない中患者さんの熱烈なつらさの発表、私を含め遺族にさせられた悲しみを受け止め国政に真摯に反映してほしい」との挨拶の後、集会は閉会しました。

休憩をはさみ院内集会に続いて省庁交渉が行われました。患者と家族の会から事前に25項目にわたる質問や要望が記された要望書が厚労省、環境省、総務省、国土交通省、内閣官房等に提出されており、各省庁の担当者が最初に用意した回答を読み上げたのち、参加者から質問する形で行われました。

昨年12月22日に小野薬品工業株式会社が胸膜中皮腫の治療薬としてニボルマブ(商品名:オプジーボ)の承認申請を厚生労働省に提出しましたが、オプジーボの一日も早い承認

について厚労省は、現在、審査中で企業の正当な利益を害することから承認時期については答えられないとしながらも、中皮腫の希少疾病用医薬品として今年の9月までを目標に審査を行うと回答しました。また、現在実施中の拡大治験の実施医療機関や想定している被験者数については、企業の正当な利益を害するという理由で公表されませんでした。拡大治験の結果の取りまとめがどのように行われ、どのように公開されるかについては、治験終了後原則1年以内に臨床試験登録情報センターに治験に係る情報を登録し、国立保医療科学の臨床研究情報のポータルサイトに掲載されるという回答でした。

このような厚労省の回答に対し、腹膜中皮腫患者で中皮腫サポートキャラバン隊で活動している関東支部の栗田英司さんは、「アリムタは申請から承認まで6か月だった。アリムタの時は承認までの期間をどうして短くできたのか勉強して欲しい」と要望を述べました。

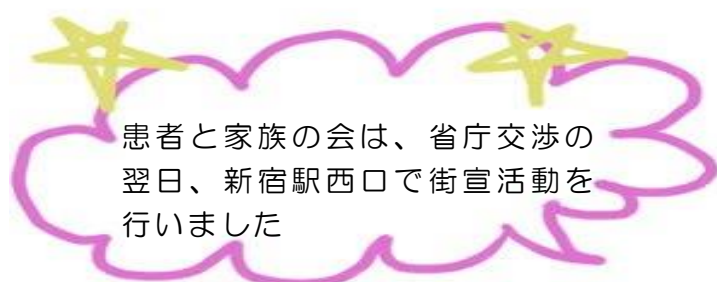
8月3日、新薬の承認の可否などを検討する厚労省の薬食審・医薬品第二部会において、オプジーボの悪性胸膜中皮種に関する有効性と安全性に関する薬事審査が行われ承認されました。近日中に健康保険適応で患者さんへのオプジーボの治療が始まります。

6月1日の院内集会と省庁交渉の動画は YouTube で見ることが出来ます。

院内集会：中皮腫 100 人集会 省庁交渉だヨ！全員集合（前半）
<https://www.youtube.com/watch?v=2KR3pjRDy1Q>

省庁交渉：中皮腫 100 人集会 省庁交渉だヨ！全員集合（後半）
<https://www.youtube.com/watch?v=XtMv4CicPu8>

（事務局 成田 博厚）





アスベスト被害を訴えるピラの配布

☆・・・今日という一日を大切に生きて・・・

それは、突然にやって来た。今朝も「いってらっしゃい」と笑顔で手を振り送り出した。30分後警察から電話が来て、通学の列に車が突っ込み、子供が病院へ搬送されたという。

それは、突然にやって来た。今朝も「いってらっしゃい」と笑顔で手を振り送り出した。11時過ぎ勤務先から電話が来て、職場で事故が発生し、主人が病院へ搬送されたという。

それは、時に前触れしてくれる事もある。過去に経験のない豪雨が続き避難勧告や指示が出て、いざ避難しようと玄関へ行くともう既に床下は浸水し、外は濁流が音を発していた。

それは、時に前触れしてくれる事もある。これまで元気で仕事をし家族孝行してきたが、健診で精密検査をと言われ受けた結果、ステージⅣの癌の宣告。半年の前触れは短かすぎる。

それは、誰に、何時、何処で、どんな形でやって来るのか分からない。

それは、悲しみや苦しみを引き連れて突然にやって来る。

それは、平穩に暮らしている日々を破壊し、悲しみと苦しみの日々を引きずり込む。

それは、自分や家族にはやって来ない、と多くの人間が思っている。そして、世の中の悲しい出来事は、自分や家族とは異なる世界の事だと考え、同情や憐れみの涙を流す。

それは、ある時自分や家族にやって来た。ある時まで他人事だった悲しみや苦しみが、自分や家族にやって来た。この時気付く、それが如何に悲しくて苦しくて辛い事であるかに。

人間は悲しい生き物である。自身にそれがやって来るまでその恐ろしさが分からない。否、分かろうとしないというのが正しいかもしれない。それ故、他人に対しては悲しくて苦しくて辛い事を平気で強いる事ができるのだ。人間とは恐ろしい生き物でもある。

それがやって来る事なく天寿を全うする人間もいる。とても恵まれた幸せな人間である。

それがやって来る人間とやって来ない人間の差は何なのだろうか。善行だろうか、悪行だろうか。それとも、単なる運なのだろうか。

それが自分や家族にやって来て初めて気付く。何気なく過ごしていた日々がどんなに大切な日々だったかという事に。大切な日々を如何に疎かに過ごして来たかという事に気付く。

それは、突然にやって来る。けれども、誰に、何時、何処で、どんな形でやって来るのか分からない。分からないから備える事はできない。対処もできない。

ならば、どうすれば良いのか。生きて今日という一日を大切にできるしかない。今日と

いう一日を疎かにせず大切に生きるのである。それが、明日にやって来ても後悔しない為に。

それがやって来る事を誰も予測も対処もできないのだから、生きている今日という一日を大切に生きていくしかない。今日という一日を大切に生きていけば、それが明日にやって来たとしても、悲しみや苦しみや辛さに耐えられるような気がするが、どうだろうか。

(中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会会員 橋本 貞章)

★事務局からのお知らせ

★夏期休暇のお知らせ

8月11日(土)～8月16日(木) 事務局休業日です。



4月				
	7日	中皮腫・同志の会		9日 新潟アスベスト被害相談会事前記者会見
	11日	宇田川さんの学校アスベスト裁判判決&報告集会		12日 名古屋労職研事務局会議
	15日	中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会新潟支部交流会 & アスベスト被害相談会		20日 静岡アスベスト被害国賠裁判傍聴、和解記者会見
	22日	新潟アスベスト被害相談会		25日 メンタルヘルス・ハラスメント対策局例会
	26日	名古屋労職研事務局会議		26日 東海在日外国人支援ネットワーク会議
	27日	アスベストユニオン会議		28日 名古屋シティユニオン定期大会

5月				
	10日	岐阜アスベスト被害国賠裁判傍聴、和解記者会見		11日 中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会長野支部結成&アスベスト被害相談会事前記者会見
	16日	岐阜羽島アスベスト被害相談会		19日 中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会長野支部結成の集い
	20日	長野アスベスト被害相談会		22日 東海在日外国人支援ネットワーク会議
	24日	名古屋労職研事務局会議		

6月				
1日	中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会院内集会、省庁交渉		2日	新宿駅前街宣、石綿対策全国連絡会議総会
9日	アスベストユニオンニチアス退職者分会臨時総会		10日	名古屋労職研第15回総会
14日	名古屋労職研事務局会議		14日	中皮腫・じん肺・アスベストセンター第16回定期総会
17日	職業性疾患・疫学リサーチセンター第16回定期総会、じん肺アスベストシンポジウム		21日	新潟患者と家族の集い
22日	岐阜アスベスト被害国賠裁判傍聴		25日	クレーンオペレーター蒲さんの労災裁判傍聴
27日	メンタルヘルス・ハラスメント対策局例会		28日	名古屋労職研事務局会議
30日	労働者住民医療機関連絡会議36回総会・シンポジウム			

7月				
1日	労働者住民医療機関連絡会議36回総会・シンポジウム		3日	名古屋労職研事務局会議
17日	岐阜アスベスト被害国賠裁判傍聴		19日	全国安全センター運営委員会
21日	第10回東海在日外国人支援ネットワーク総会		26日	名古屋労職研事務局会議

【労職研 会費・カンパ振込先】

郵便振替 口座番号 00860-5-96923

加入者 名古屋労災職業病研究会

発行 名古屋労災職業病研究会

発行者：森 亮太

名古屋市昭和区山手通 5-33-1 杉浦医院 4階

Tel./Fax.052-837-7420

e-mail: roushokuken@oregano.ocn.ne.jp

http://nagoya-rosai.com/

